



【まとめ】
聞き書きプロジェクトから
見てきたこと

私たちは、
「里海」という
つながりの中で
暮らしている。

山、川、里、海……。今回私たちは、4つのエリアに分かれて、24人の里海名人たちにお会いしてきました。一つひとつのお話は、バラバラのように見えますが、水の流れをたどっていくと、決してそうではないことに気づきます。

例えば、水道ができる以前の暮らしにさかのぼってみると、塩江の川の達人の喜多さんが、食事や洗濯などの生活用水をすべて川の水でまかなっていた頃、豊島の中野さんと笠井さんも、唐櫃の清水の湧き水を上手に使い分けて、生活していました。一方、水源が乏しかった伊吹島の三好さんは、雨水を貯める天水井戸を掘り、同じ水を何度も繰り返し使っていた時代の苦労を語ってくれました。まさに水は人が生きるために不可欠なもの。自分たちが使う水がどこから来て、どこへ流れていくのか。それは生活の一部として日々意識されていました。大水上神社の宮本さんが「川に肥え灼を浸けることさえしなかった」と語るように、水を綺麗に保つことは当たり前

だったのです。

ため池のゆる抜きがはじまる6月、満濃池の石崎さんが線香水の番をしながら田んぼに水を引き入れていた頃、鴨部川の細川さんの水車小屋でも、田植えの時期になると川の水量が減って発電機で水車を回していたと言います。水はどこかが多く使えば、どこかで減る。同じ水源を川と里でわかち合っていることがよくわかるエピソードです。

また、綾川町のドジョウ汁名人の豊島さんは、田んぼの用水路や池へ行けば、ドジョウが何十匹も捕れ、タニシやシジミ、川魚もたくさんいたと言いますし、櫃石島でたて網漁師をしていた東山さんも、子供の頃は岩の上から海を覗くと、ペラがいっぱい泳いでいるのが見えたと話してくれました。人が使った後の水が自然を汚すことなく、調和が保たれていたことが伺えます。

ところが、昭和30年代に入ると、こうした生活環境に変化が訪れます。山間部や島しょ部より早く、すでに水道が普及していた都市部では、水は空気と同じであって当たり前。水汲みから解放された代わりに、暮らしの中で水を意識することもなくなりません。

ドジョウ養殖の宮崎さんが、土器川のドジョウの異変に気付いた昭和35年頃。ドジョウ汁名人の豊島さんは、ドジョウを買ってつくらなければならなくなり、

櫃石島では、磯の貝が姿を消し、藻場も減ったと東山さんは言います。特に温暖化が進んだ昨今、長年海底を見つけてきた元潜水漁師の塩田さんは、ここ5、6年で、見慣れない外海の花菜が瀬戸内海にも増えていると危惧します。

時代の流れは、自然を生業とする人たちの暮らしにも影響を及ぼしました。昭和47年、柏原さんの宇多津塩田は化学製塩の登場で操業停止になり、同じ頃、大前さんが育った瀬居島は、工業用地確保のために埋め立てられて陸続きになりました。山では輸入材や新建材の登場で林業が低迷し、塩江の藤上さんと五郷の石井さんは、人の手が入らなくなつた山の荒廃ぶりに心を痛めています。より豊かに便利に暮らしたい。そんな時代の要求とともに、次第に私たちの暮らしは自然から遠ざかってしまったのかもしれません。

だからと言って、自然との関係が途切れてしまったわけではありません。

それを一番に教えてくれたのは、台所を預かるお母さん名人たち。山の名人である五名の原田さんと五郷の藤岡さんは、山の恵みをいただいて味噌やこんにやくを手づくりする楽しさを教えてくれました。また、「カンカン寿司」の秋友さんと「鯛めし」の都崎さんは、郷土料理を通して、かつての暮らしの記憶を次世代に受け継ごうとしています。

神楽組の森口さんは、祭りの本質は神様と一体になって五穀豊穣を喜び感謝すること、山や海へ行かずとも、里の祭りの中にも自然との関わり方を考えるヒントがあると教えてくれました。さらに元船乗りの山北さんと萩原さんは、海で働く醍醐味を熱く語り、若者たちよ、海の職場に戻っておいでとエールを送ってくれています。

未来に向けた試みもはじまっています。津田の松原の鶴身さんたちは、先祖代々守ってきた松原を保存するだけでなく、ガイドツアーを通して新しい人たちにその歴史を伝えていきますし、小手島のたこツボ漁師の合木さんのところでは、後を継いだ息子さんが、タコの卵をふ化させて海にかえすなど、獲る漁業だけでなく育てる漁業にも挑戦しています。

こうして、里海名人たちから受け取ったメッセージをパッチワークのようにつないでいくと、まるで一枚の布のように、おぼろげながら里海の全体像が浮かんできました。それは、私たちは山や川、里、海と違う場所に住んでいるように見えて、本当は「里海」という同じ一枚の布の上で生かされているということ。その布を使って、次はどんな暮らしを形づくるのか。それは里海に暮らす全員のためにかかわる、とても大切な議論だと思うのです。あなたは、里海名人たちから、どんなメッセージを受け取りましたか？